

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：32686
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2019～2023
 課題番号：19K12588
 研究課題名(和文)複合現実体験としての聖地巡礼：ルルドをはじめとする19世紀西欧における虚実の融合

研究課題名(英文) Pilgrimage as Mixed Reality Experience: Fusion of Fiction and Reality in 19th Century Western Europe, especially in Lourdes

研究代表者
 石橋 正孝 (Ishibashi, Masataka)
 立教大学・観光学部・准教授

研究者番号：70725811
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、(1) 聖母出現によってカトリック有数の聖地となったフランスのルルド、(2) シャーロック・ホームズに代表される「キャラクター」をめぐるファンが行う「聖地巡礼」、そして(3) 19世紀の英米における心霊主義を比較対照することによって、19世紀以後の大衆消費社会に特有の虚実融合現象に基づく特殊な共同体として観光を再定義するとともに、そこでの想像力の役割を解明することを目指し、五年にわたって共同研究を実施した。COVID-19の世界的流行に伴い、現地調査を十分に行い得なかったが、代わりに、観光と想像力の関係をめぐって一定の理論構築を実現できたことは大きな成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 オーバーツーリズム等の観光の弊害を緩和するには、大多数の観光者が観光情報に誘導されている現状から、個々の観光者が独自の関心に基づいて観光経験における価値を自ら創出する傾向が高まる必要がある。その際に鍵となるのが想像力である。本研究は、想像力による価値創出の具体例として、異なるタイプのそれを比較することで、想像力の機能を解明する端緒を開いた。加えて、国内の模造ルルドを通して土地の固有性を移す/写す可能性を考察し、多分野の研究者との対話を重ねるなかで、文学作品に限らず、広く虚構作品とその舞台に選ばれた現実の場所について、送り手、受け手、そして作品の三者の関係を整理、問題の一般化につなげた。

研究成果の概要(英文)：By comparing (1) Lourdes in France, which became one of the most important Catholic holy places due to the apparitions of the Virgin, (2) “pilgrimages” made by fans of “characters” like Sherlock Holmes, and (3) spiritualism in 19th century Britain and the United States, this study tried to redefine tourism as a special community based on the fusion of reality and fiction characteristic of mass consumer society since the 19th century. Although we were not able to conduct sufficient field research due to the global epidemic of COVID-19, we were able to construct a theory on the relationship between tourism and imagination.

研究分野：フランス文学

キーワード：観光 巡礼 ゲニウス・ロキ コンテンツ・ツーリズム 文学散歩 複合現実 聖母出現 観光文学

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

COVID-19 の世界的流行の以前に問題となっていたオーバーツーリズムを背景に、観光の量から質への転換、すなわち、個々の観光者が独自の関心に基づいて自ら観光経験における価値を創出する必要性が高まっており、その際に鍵を握る想像力の機能に注目が集まりつつあったことから本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

聖母出現によってカトリック有数の聖地となったフランスのルルド、シャーロック・ホームズに代表される「キャラクター」をめぐるファンが行う「聖地巡礼」、そして19世紀の英米における心霊主義を比較対照することによって、19世紀以後の大衆消費社会に特有の虚実融合現象に基づく特殊な共同体として観光を再定義するとともに、そこでの想像力の役割を解明することを目的とする。

3. 研究の方法

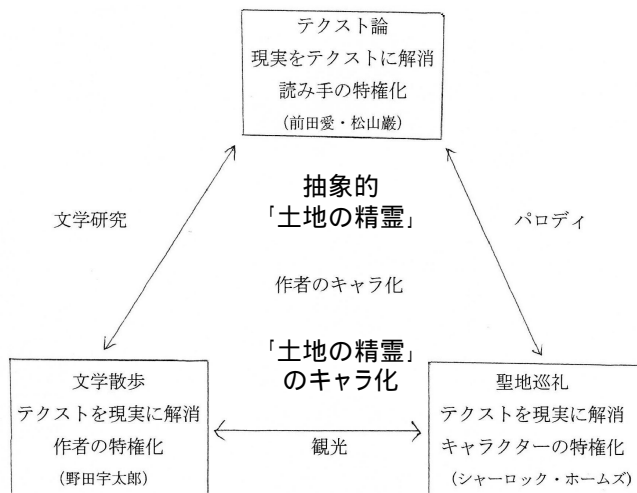
文献調査、ルルドおよび類似現象が生じた場所におけるフィールドワークを主たる研究方法として設定した。前者については、先行する文学研究の類型を整理するとともに、そこで軽視されがちだったいわゆる「聖地巡礼」的な行為の特徴を、参与観察を通して明らかにし、文学理解の一方法として位置づける理論的考察を行った。社会学、文化人類学、地理学等の専門家を招いて討論を重ねることで、観光における想像力の働きを多角的に捉えることを試みた。

4. 研究成果

初年度に下見を兼ねたフィールドワークを実施した直後、COVID-19 の世界的流行があり、十分な調査を行えなかったため、国内における多分野の研究者との学术交流、そして国内に複数存在する模造ルルドの調査に重点を切り替え、それらを踏まえて広く虚構の物語と現実の場所の関係について理論構築を目指すこととした。

具体的には、まず初年度において、近代文学の受容をテキスト論・文学散歩・聖地巡礼の三通りに分類、それぞれの関係を模式化し、この理論が観光研究に応用可能であることを明らかにした。

現実(舞台)との関係から見た三種類の受容形態 (テキスト論、文学散歩、聖地巡礼)



野田宇太郎が提唱した文学散歩は、作者に関わりの深い土地を訪れ、極力作家の視線と同一化することで、作品を生み出した原因に遡って作品を理解しようとする行為である。この場合、生身の作者は、自作をすべて把握していると想定されているため、ウンベルト・エーコのいう「モデル作者」とほぼ同一視されている。

これに対し、聖地巡礼は、物語の中に入り込み、登場人物を現実化させたいという欲望に動かされて、舞台とされる現実の土地を訪れる行為を指す。作者は除外されるべき存在であり、読者はむしろ作者に代わって自ら「モデル作者」の地位を占めようとする。この二者は「観光を通した文学」といえる。

最後に、テキスト分析は、作者を含め、言葉で書かれたテキストの前には読者しか存在を許さない「文学を通した観光」である。このテキスト分析を含めた三者はそれぞれ対立関係にある一方、文学散歩と聖地巡礼は観光に、テキスト分析と文学散歩は文学研究に、テキスト分析と聖地巡礼はパロディ（二次創作）になじみやすい。三者の往還によって、「ゲニウス・ロキ」が想像力によって浮かび上がってくる。かくして土地がいれば賦活されるのである。

建築の文脈で用いられてきた「ゲニウス・ロキ（土地の精霊）」という概念は、土地という作品の「モデル作者」であり、ルルドでは聖母マリアがそれに、マリアを目撃したベルナデットは「作者」、それも作品を支配できない「弱い作者」に、ルルド巡礼者は「読者」にそれぞれ対応し、巡礼者はルルドという作品を弱い作者たるベルナデットから奪って、自ら「モデル作者」という原因に遡行するアブダクションを介して一種の二次創作を行っている。

興味深いのは、ルルドという土地の固有性には、聖母マリアに対応する要素（とりわけ洞窟と泉）があって、聖母はルルドの「モデル作者」であるだけでなく、それ以上に「キャラクター」としての自身に対する「モデル作者」になっていることだ。そして、シャーロック・ホームズ・シリーズでもまったく同様のことが生じており、読者が「モデル作者」に遡行しようとするのは、作中において表向き「作品」に相当している犯罪に対してではなく、犯罪の「モデル作者」を繰り返し僭称するホームズというキャラクターが孕む謎になっている。

ここに見られるアブダクション的想像力は、疑似科学、とりわけ顔面等の表層に、その裏側に隠された本質を表す「記号」を見出そうとする観相学およびその発想を引き継いでいるホームズの推理に共通しており、「読者」をそのような作業に巻き込む仕掛けがルルドにもホームズにもそなわっている。ルルドにおける「仕掛け」は、「無原罪のお宿り」を自称したという「白いもの」の言動に応じるベルナデットの言動が解釈を誘発したことを起点に、寒村がその周縁部から完全に作り替えられるまでに至る。

この後者の過程のメカニズムを理解する手掛かりとして、疑似科学的想像力に類する「パリ神話」（ロジェ・カイヨワ）が重要である。19世紀の華やかなパリの裏側に（諸悪の根本原因として）犯罪都市を透視する「パリ神話」は現状維持を志向させるイデオロギーとして作用するのに対し、マレ地区を対象とするバルザック作品を典型として、衰退した街区に過去の栄光を投影する逆パターンは、ジェントリフィケーションを推し進める原動力となりうる。このメカニズムはルルドの聖地化プロセスにも適用できるだろう。

また、国内における「コピー版ルルド」を調査し、ルルドという土地に固有の力の「移し/写し」を実践した事例の収集と分析を進め、物語の影響にどこまで土地の固有性が関わっているのか、という理論的考察を進めた。長崎の浦上地区の事例では、隠れキリシタンという奇跡が起きたこの地に湧き出す泉が、ルルドの「ゲニウス・ロキ」を「分霊」する媒体として相応しいとフランス人宣教師たちに見做された形跡が認められる。言い換えれば、隠れキリシタンという表向きの奇跡を裏で支える「ゲニウス・ロキ」にルルドを見立てようとする欲望が働いていたと考えられる。

他方で、その後この地に原爆が投下されたことから、負のイメージだけが現在まで引き継がれ、隠れキリシタンの記憶を中心とする観光地化の対象から浦上は排除されている実態が浮き彫りになった。コピー版ルルドは、ルルドにおける「観光」を浦上に「移す/写す」には至っていないどころか、むしろ本来のカトリック的文脈を強化している点で逆効果を生んでいるわけで、本家の観光現象を理解する上で示唆的であると考えられる。日本各地に分布しているコピー版ルルドにしても、大規模なスピリチュアル観光を生み出すには至っていない。

ここから導かれる仮説は以下の通りである。おそらくプロテスタントには受け入れがたい側面がもともとルルドにはあり、それが浦上という土地の固有性によって強化されたのではないか。そして、プロテスタントと比較した場合、カトリックには観光化されやすい要素が多く含まれているとはいえ、それだけでは観光化に至らず、まずプロテスタントに受け入れられなければ、キリスト教信者以外の層に受け入れられないのではないか。カトリックのほかの聖地や寺院と世俗化の関係にまで考察を広げる必要があり、この点に着目しえたことは今後の研究にとって重要な成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 石橋正孝	4. 巻 3
2. 論文標題 スイスのシャーロック・ホームズ巡礼	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 RT	6. 最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石橋正孝、小林実、羽生敦子、原一樹、舛谷鋭、安田慎	4. 巻 3
2. 論文標題 観光文学のコンタクトゾーン	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 RT	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 羽生敦子	4. 巻 26
2. 論文標題 日本のコピー版ルルドに関する一考察 長崎「本河内カトリック教会」を事例に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 66-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野美奈子、羽生敦子	4. 巻 3
2. 論文標題 文学テキストを通じたカナダ観光体験	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 RT	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河野美奈子	4. 巻 14
2. 論文標題 イヌー文学における "silence" と "guerison" をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ケベック研究	6. 最初と最後の頁 118-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽生敦子	4. 巻 14
2. 論文標題 小倉和子著『記憶と風景 間文化社会ケベックのエクリチュール』(彩流社、2021年)書評	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ケベック研究	6. 最初と最後の頁 206-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舛谷鋭	4. 巻 25
2. 論文標題 戦争を巡るダーク・ツーリズム試論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 2-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00022690	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舛谷鋭	4. 巻 65
2. 論文標題 英培安詩選および解題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 180-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舩谷鋭	4. 巻 24
2. 論文標題 トラベルライティングと国民国家	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽生敦子	4. 巻 24
2. 論文標題 観光都市長崎から周縁化する「浦上」について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 98-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽生敦子	4. 巻 22
2. 論文標題 日系ケバック人作家Aki Shimazakiとパンタロジー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 白百合女子大学言語・文学研究センター言語・文学センター論集	6. 最初と最後の頁 53-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽生敦子	4. 巻 -
2. 論文標題 コピー版ルルドの一考察：長崎を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 令和2年12月第35回日本観光研究学会全国大会	6. 最初と最後の頁 353-357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舛谷鋭	4. 巻 1
2. 論文標題 東南アジアのサイノフォン詩人たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 180-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舛谷鋭	4. 巻 3
2. 論文標題 文化産業としてのカラフルツーリズム：紅色旅遊について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日中経協ジャーナル	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽生敦子	4. 巻 20号
2. 論文標題 巡礼地から観光巡礼地に至る変遷の一過程について：ルルドを事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 白百合女子大学言語・文学研究センター言語・文学研究論集	6. 最初と最後の頁 37-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 羽生敦子
2. 発表標題 パリ市内のスピリチュアル系巡礼地：バック通りを事例に
3. 学会等名 第38回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石橋正孝
2. 発表標題 シャーロキアンたちの聖地巡礼
3. 学会等名 メディアを横断するフィクション
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 舛谷鋭
2. 発表標題 日本動漫等聖地型旅游文化研究
3. 学会等名 韓江大学学院中華研究院（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 舛谷鋭
2. 発表標題 馬華現実主義和日本私小説
3. 学会等名 学楽書苑・ラーマン大学講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi Masutani
2. 発表標題 Asian Tourism as International Migration: Post COVID-19 Crisis as Reflection for Future Civilization
3. 学会等名 INTERNATIONAL CONFERENCE ON ISLAMIC CIVILIZATION, SCIENCE AND HUMANITIES(ICISH) 2022（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi Masutani
2. 発表標題 Chinese Diaspora and National Identity in Southeast Asia Studies
3. 学会等名 International Conference on Chinese Diaspora in Southeast Asia Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 舩谷鋭(企画)、石橋正孝、羽生敦子、佐々木菜緒、平賀裕貴
2. 発表標題 世界に拡散するフランス観光巡礼地ルルドの研究
3. 学会等名 2022年度日本観光研究学会 第37回全国大会研究ワークショップ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 舩谷鋭
2. 発表標題 通過旅遊書写保持国家認同
3. 学会等名 The 3rd Zhejiang University and Harvard University World Literature Workshop (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 羽生敦子
2. 発表標題 日系ケベック人作家Aki Shimazakiとパンタロジー
3. 学会等名 日本ケベック学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 舛谷鋭
2. 発表標題 異文化交流論：マレーシア
3. 学会等名 特別講義・長崎大学多文化社会学部
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 舛谷鋭
2. 発表標題 基調講演 ダークツーリズムの彼岸
3. 学会等名 台湾日本語文芸研究学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 羽生敦子
2. 発表標題 ケベックのフランコフォン文学とアロフォン作家：日系カナダ人作家 Aki Shimazakiがフランス語で描く「日本」
3. 学会等名 International Conference on Dialog between Sinophone and Orality（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野美奈子
2. 発表標題 デュラスとインドシナ：自伝的作品における父親の不在をめぐって
3. 学会等名 立教大学観光文学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 羽生敦子
2. 発表標題 観光巡礼地ルルドについて
3. 学会等名 第21回総合社会科学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石橋正孝
2. 発表標題 地霊（ゲニウス・ロキ）としてのシャーロック・ホームズ
3. 学会等名 第7回コンテンツツーツリズム学会論文発表会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 羽生敦子
2. 発表標題 コンテンツ・ツーツリズムとしてのルルド巡礼の一考察
3. 学会等名 第34回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 羽生敦子
2. 発表標題 聖ベルナデットを超えて拡散する「ルルド」
3. 学会等名 第34回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野美奈子
2. 発表標題 想像のまちヌヴェール：ベルナデット とデュラスの『ヒロシマ・モナムール』を通して
3. 学会等名 第34回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石橋正孝
2. 発表標題 シャーロック・ホームズというコンテンツツーリズム
3. 学会等名 第34回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 溝尾良隆（監修）、羽生敦子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭文社	5. 総ページ数 224
3. 書名 旅地図 世界	

1. 著者名 増淵敏之（編者）、安田亘宏、岩崎達也、溝尾良隆、中村忠司、風呂本武典、石橋正孝、毛利康秀、清水麻帆、菊池映輝	4. 発行年 2021年
2. 出版社 生産性出版社	5. 総ページ数 263
3. 書名 地域は物語で「10倍」人が集まる	

1. 著者名 新島進（編者）、私市泰彦、フォルカー・デース、三枝大修、荒原邦博、識名章喜、石橋正孝、巽孝之、島村山寝、藤元直樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 309
3. 書名 ジュール・ヴェルヌとフィクションの冒険者たち	

1. 著者名 レジス・メサック、石橋正孝、池田潤、佐々木匠、白鳥光、槇野佳奈子、山本佳生	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 804
3. 書名 「探偵小説」の考古学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	羽生 敦子 (Hanyu Atsuko) (90744780)	白百合女子大学・言語・文学研究センター・研究員 (32627)	
研究分担者	平賀 美奈子(河野美奈子) (Hiraga Minako) (20795570)	立教大学・外国語教育研究センター・准教授 (32686)	
研究分担者	舛谷 鋭 (Masutani Satoshi) (90277806)	立教大学・観光学部・教授 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------